

地域支援だより

東京都立町田の丘学園

校長 茂木 裕之

相談支援部

第2号 平成30年6月30日発行



将来を視野に入れた支援を目指して

～夏季定例支援会議～

しとしとと落ちる雨の中、子供たちの畑やプランターの緑はぐんぐん育ち、それを見守る子供たちに笑顔を運んでくれています。1学期もまとめの時期に入ります。改めて、頼もしくなった子供たちの成長を実感できるうれしい季節です。

夏休みが近付きました。今年も夏休みには夏季定例支援会議を実施します。

長く続いてきた定例支援会議ですが、障害児者を取り巻く様々な状況が変化する中で、この会議も見直しを行い、形を変えてきました。かつては、小学部1年生・4年生、中学部1年生を対象としていましたが（肢体不自由教育部門は現在もこの形で行っています。）、知的障害教育部門では、小学部1年生の定例支援会議は「支援に関する学習会」に形を変えて、4月に実施しています。夏休みには、小学部4年生と中学部1年生を対象として行います。

支援会議自体は必要に応じていつでも設定できるものですが、学年を決めて定例で実施することを大切にしてきました。小学部に入学してから高等部を卒業するまでの12年間、日々の生活をより良いものにするために、また将来の社会参加と自立に向け、一年一年を充実した中で過ごせるように、全てのお子さんに機会をと考えて続けてきています。

小学部4年生は地域会場型

ここ数年で放課後等デイサービスの利用が増え、多くのお子さんが下校後や長期休業中、学童保育クラブや放課後等デイサービスで過ごしています。4年生は、その場を会場として会議を行います。本人の活動する姿を見た上で、保護者と担任、会場となる地域関係機関の方の三者で話をすることができます。子供の一日の生活を考えて共通理解を図ります。その日その日のことにとどまらず、少し先のことや将来のことも見据えて話し合うことができます。

また、4年生でもニーズに応じて学校会場型の会議を設定することもできます。学校から御相談させていただくこともあります。

中学部1年生は学校会場型

学部が変わり、生活が変わった中学部1年生。小中高12年間の学校生活の後半に入りました。学校生活の後半をどう過ごしていくか、考える大切な時期です。

現在の生活について共通理解を図るとともに、3年後の高等部での生活や将来の生活を想定して、それまでに付けたい力や取り組み、経験しておきたいことなどについても相談することができます。個々のニーズに応じて、困っていることや悩んでいることについて相談したり、地域関係機関が提供するサービスや地域資源の紹介をしたりする場にもなります。

*肢体不自由教育部門は受けるサービスや関係支援機関が多くなることもあるため、どの学年でも、地域会場型・学校会場型のどちらも選べるようになっています。

子供たちには、家庭での生活があり学校での生活があり、そして地域での生活があります。それぞれの場所で、安心・安全に過ごすことや力を発揮することを願いつつ多くの大人が関わっています。この会議を行うことで、関係者が連携を深め、協力体制を築いていくことができると考えます。子供たちの現在そして少し先のこと、さらにはその先にある将来について考える機会にしていきたいと思えます。

(指導教諭 前田真澄)

苦手なことにはわけがある

「男はいつもこうだから」「だから女は面倒くさいんだ」。男女平等の時代にこんなことを言うとお叱りを受けてしまいそうですが、何となく男女の行動パターンの違いを感じている方は多いのではないのでしょうか。これは単なる印象に過ぎないのか、それとも生理的な現象にその理由を求めることができるのでしょうか？

最近の研究で、こうした行動の性差には、「セロトニン」という神経伝達物質が関与しているのではないかということが分かってきました。性差の問題はデリケートですから、一くくりにして論ずることはできませんが、ただ女性は男性に比べて、セロトニンの合成能力が低いということはPET（陽電子放射断層撮影法）による画像実験で確かめられているそうです。セロトニンは安心感の源になるとされる物質です。つまり、女性のほうが男性よりも「不安になりやすい」というわけです。

セロトニンが少ないと不安感が強くなるため、より現実主義的で先々のリスクを正確に見積もり、その結果、できることを先延ばしにしないのです。不測の事態のイメージが自然に湧き起こって、比較的コツコツと準備する傾向が強いと考えられます。

発達障害の子供たちの行動にも、こうした神経伝達物質が関与していることが明らかになってきました。お医者さんに相談して出されるお薬は、こうした神経伝達物質を調整する作用があるため、すぐに効果が現れることがあるそうです。本人の気持ちのせいだけではなく、「苦手なことには生理的なわけがあった」のですね。しかし、行動を決めるのは、子供たちそれぞれの脳であり、脳は今まで経験してきたことに沿って判断を下すので、特性に合わせた学習も非常に大きな要素となります。

皆さんも異性にこちらの希望どおりに動いてもらいたいときに、上手に異性の性質を利用した方法（具体的なテクニックについては残念ながら割愛しますが）を使っていますよね？ そうした生理的な性質に合った接し方が有効なのは、子供たちも同じかもしれません。



地域支援セミナーでは、こうした生理的な特徴とそれに応じた効果的な学習支援・行動支援についての話題が満載です。現時点で、ちょっとびっくりするくらいの数のお申込みをいただき、その反響の大きさに驚いています。パイプ椅子だけの座席となる会場もごさいますが、できるだけたくさんの方にお聞きいただけるよう準備いたします。町田の丘学園のホームページにお知らせと参加申込みを掲載しておりますので、興味のある方は是非お申し込みください。

回	日時	会場	内容・講師
1	7月27日(金) 9:30～ 12:00	町田の丘学園 山崎校舎 プレイルーム	講演「姿勢や運動の苦手さ、手先の不器用さがある 子供の理解と支援」 講師 よこはま港南地域療育センター 作業療法士 松本 政悦 氏
2	8月2日(木) 9:30～ 12:00	町田の丘学園 本校舎体育館	講演「アセスメントの最新事情」 講師 明星大学心理学部心理学科教授 小貫 悟 氏
3	8月9日(木) 9:30～ 12:00	玉川大学	講演「知的障害者のライフコース ～はたらく、くらす、たのしむ、つきあう～」 講師 明星大学教育学部客員教授 平井 威氏

学校間交流校への理解推進授業の紹介

6月6日に、本校コーディネーターと交流担当の教員が、交流校である七国山小学校の4年生に向けて理解推進授業を行いました。授業の様子をスライドと抜粋した内容でお伝えします。

使用したスライド

授業内容の抜粋や子供たちの様子

1

七国山小学校との交流

「障がいがある」ってどういうこと？
～町田の丘学園について～

都立町田の丘学園
コーディネーター 川邊 千春
交流担当 菊池 弥生

4つの柱

- 1 学校の紹介、町田の丘学園の小学部のお友達の紹介
(肢体不自由教育部門と知的障害教育部門)
- 2 町田の丘学園で工夫していること(設備・教材)の紹介
- 3 体験コーナー
- 4 昨年の交流の様子と今年の交流について

2

町田の丘学園では
「こまった」をへらす
工夫があります！



人は、いろいろな力をもっています。

その力を発揮するのが、「得意な人」もいれば「苦手な人」もいます。七国山小の4年生にも尋ねると、「得意なこと」で手を挙げたり「苦手なこと」でも手を挙げたりして応えてくれました。

町田の丘学園の友達の中には、とても多くの苦手さをもっている人がいます。その人が、学校で過ごしやすいうように、その人の「困った」を減らすために、町田の丘学園では、様々な工夫があります。

3

体験



これから、みんなと
いっしょに、ある体験を
してみましょう。

体験コーナーでは、2つの体験を行いました。

- 1 「Aさん」に声を掛ける体験
- 2 七国山小の代表6人による実演

- 1 なぜ、声を掛けたのに「Aさん」は気づかなかったのか？七国山小の4年生が、考えた意見がたくさん発表されました。
- 2 代表者6人の実演では、一度に言葉を掛けられ、戸惑い不安になる人がいるという体験でした。

4

「不便なこと」がへると、
「こまった」もへります。

何をしたら「不便なこと」が
へるかな。
いっしょに 考えてくれると
うれしいです。



町田の丘学園の友達の中には、初めての場面がとても苦手な人がいます。何をするのか分からなくて、じっとしてられないこともあります。

初めてで分からないときに、人はとても不安になります。緊張して不安になることは、きっと七国山小のみんなもあるでしょう。子供だけでなく、大人でもありますね。そのようなときには、どうしたらいいか、みんなで考える時間を持ちました。不安を安心にできるといいですね

5

なかよくしたいな... よろしく
おねがいます
いっしょに
活動しましょう！

日にち 9月25日(火)
時間 9時30分～11時30分
場所 町田の丘学園 山崎校舎
内容 みんなといっしょに考えようね！

一緒に活動して、交流するのは友達になるチャンスです。体験コーナーで「こんなときに不安になる」ということを感じた七国山小の4年生が、『何をするのか』が、分かると安心すること気付いた人もいましたね。

交流では「一緒に、ここに並ぼうね」「こんなルールだよ」とやさしく声を掛けてくれると、うれしいです。

9月25日(火)、町田の丘学園山崎校舎で待っています。

町田の丘学園の研修会・学習会・ワークショップあれこれ

共生社会の実現に向けて、「地域とともに学ぶ・つながる」をテーマ

に地域に向けて、精力的に情報発信しています。

月 日 ()	
1	●●●●●
2	●●●●●
3	●●●●●
4	●●●●●
5	●●●●●



○既に実施された研修会

特別支援学級 新任転任教員研修 4.27

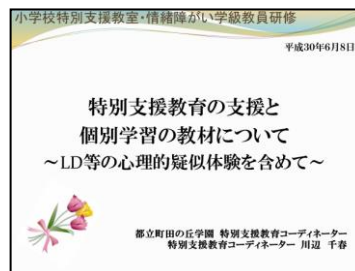
生活指導主任会（研修会）5.15

町田市コーディネーター連絡会 5.18

特別支援学級担当者会 6.1

学童保育クラブ指導員研修 6.11

小学校特別支援教室・情緒障害学級教員研修 6.8



中学校1年生向けコミュニケーション講話 6.8

高校1年生向け共生社会講話 5.25

○これから予定されている学習会・ワークショップ等

就学に関する学習会 7.26

障がい福祉部会研修会 7.24



→ 今年の期日

夏のワークショップ（山崎校舎 7.27 他）

夏のワークショップ（本校舎 8.2）

<お問合せ先> 東京都立町田の丘学園相談室(地域・進路コーディネーター)

○本校舎

旭岡 善介（ひのおか ぜんすけ）
木下 美夏（きのした みか）
森山 知也（もりやま ともや）

〒195-0063 東京都町田市野津田町 2003
電話 042-737-0570 FAX 042-737-0580

○山崎校舎

川邊 千春（かわべ ちはる）
前田 真澄（まえだ ますみ）

〒195-0075 東京都町田市山崎 1-2-17
電話 042-792-4260 FAX 042-792-4264



★その他、サポートスタッフ多数

（臨床心理士・臨床発達心理士・特別支援教育士・言語聴覚士・視機能訓練士・カウンセラー・企業関係者などいろいろなジャンルの外部専門家も入っています）